

研究機関名：東北大学

1.受付番号	2021-004
2.研究課題名	減塩ラベルの応用に関する研究
3.研究期間	令和3年6月（倫理審査委員会承認後）～ 令和4年 3月31日
4.研究の概要	意義・目的（研究の背景・目的や倫理的項目についての的確に記すこと。） 本研究では、減塩食についての態度と行動を測定することを目的とした。最初に市販の減塩食と同じ商品の通常食のパッケージを提示し、パッケージに減塩ラベルが記載されていたか否かを行動指標及び視線計測によって測定する。この時、減塩商品、ラベルの大きさや色などが検出率にどのような影響を与えるかを検討することにより、誘目性の高い商品パッケージの設計につながることを期待される。 また、実験終了時に、減塩食に対する態度と摂取頻度等の行動を Grimes et al. (2017)によって作成された KAB 調査用紙により計測する。減塩食に対する知識や態度、普段の行動が減塩ラベルに対する誘目性にどのような影響を与えるかを調べることにより、減塩食をより普及させるための方策に役立てることができると期待される。 方法（研究に必要な対象者人数、年齢構成、性別、および対象者を選ぶ方針・基準も記すこと） 本研究では、対象者として東北大学学生（日本人）100名を予定する。実験参加者の募集は研究室内の掲示板、学生へのチラシ配布、学生同士の声かけなどにより募集する。なお、参加に際して、謝金等は生じない。また、実験実施時に発熱や咳など、体調が通常とは異なる場合、実験日を延期するか、実験参加への辞退をするように予め依頼する。 本研究は以下に示す実験と調査の二つの手続きからなる。いずれも衛生上の種々に留意し、健康な状態の大学生だけに参加してもらう。 まず実験を実施する。実験参加者はソフトウェアによりモニタ上に提示される市販の商品写真に対して、減塩商品であるか否かをキー押しにより判断する。この課題中に実験参加者の視線を Tobii x2-60 あるいは Tobii x-120 により計測する。これらの視線計測装置は全て赤外光を使用しているが、世界的に広く使用されているものであり、これまで健康被害は報告されていない。 調査では、オーストラリアで開発された KAB 質問票の日本語版に対して google forms により回答する。質問への回答は任意であり、答えたくない質問に対しては回答しなくても良いことを事前に説明する。 問い合わせ・苦情等の窓口（講座・研究室の連絡先を記入し、研究者の個人名は記入しないこと） 文学研究科心理学研究室（022-795-6048） 東北大学川内南地区「人を対象とする医学系研究」倫理審査委員会事務局（022-795-6103；sed-syom@grp.tohoku.ac.jp）

（紙面が不足するときには、罫線の縦幅を任意に増やし、次頁送りにしてください。）